



総務省 情報流通行政局 放送技術課 課長補佐

大塚 恵理

Eri Otsuka

平成 16年 4月 総務省採用
同 情報通信政策局宇宙通信政策課
平成 18年 8月 同 情報通信政策局技術政策課研究推進室
国際関係係長
平成 20年 7月 同 総合通信基盤局電波部移動通信課
国際係長
平成 22年 7月 内閣府行政刷新会議規制・制度改革担当
事務局参事官補佐
平成 24年 6月 在シドニー日本国総領事館領事
平成 27年 7月 現職

放送が拓く新しい未来に向けて

新しい放送サービスの 実現に向けて

平成23年7月24日、我が国では地上テレビジョン放送がデジタル放送に完全移行しました。このデジタル化によってTV映像が高品質化したとともに、周波数の効率的な使用が可能となり、周波数帯に新たに「空き」が生まれました。この「空き」周波数帯に新しい放送サービスを導入することが、現在の私の仕事です。具体的には、新しい放送サービス「V-Low（ぶいろー）マルチメディア放送」の導入に向けた技術政策、許認可等の業務を担当しています。

「V-Lowマルチメディア放送」という言葉を初めて目にする方も多いのではないのでしょうか。本原稿を執筆している時点では、未だサービスが開始される前段階にあり、平成28年3月1日に一部地域で放送が開始される予定です。放送という言葉から、テレビやラジオを想像頂けると思いますが、この「V-Lowマルチメディア放送」は、デジタルテレビの方式（ISDB-T）を拡張したISDB-Tsb方式を使用する日本版ラジオのデジタル放送といったところです。ハイレゾと呼ばれる超高音質の音声放送や、映像や文字情報を音声情報と一緒に送ることが可能となり、これまでのラジオとしてではなく、車でラジオを聴きながらカーナビに天気予報等の文字や画像情報を表示するといった新しいサービスが期待されています。

現在私は、今後5年間で計画されている約数百の放送局の整備計画に対し、放送局毎に行われる無線局免許申請それぞれの技術審査に携わっています。既に存在している他のシステムに影響無く新しい放送サービスを導入するために

は、緻密な技術検討が必要となります。異なる立場の関係者間の調整を行うのは行政の役目であり、その際の判断材料の一つとして、技術的な検討や実測による検証の結果は重要な役割を果たします。技術検討の妥当性をどのように見極めていくのか、関係者の方々と議論を繰り返し、様々な視点で検証を行いながら結論を得られるよう、日々奮闘しています。

海外赴任先シドニーでの発見

入省後これまで、宇宙通信政策、音声翻訳やロボット等のICT（情報通信技術）分野での研究開発の企画立案、車載用通信システムの技術基準策定、内閣府において再生可能エネルギー分野等の規制・制度改革を担当するとともに、直近では3年間オーストラリアの在シドニー日本国総領事館に勤務する機会を頂きました。

シドニー勤務時代には、国際モバイルローミング料金に関する日豪協力関係の構築、測位衛星の日豪共同利用に向けたプロジェクト推進といったICT分野の業務に加え、姉妹都市交流や訪日観光の促進等の幅広い分野を担当させて頂きました。文化や価値観の異なる人を相手に生活し仕事をするのは、苦労も多かったですが、新たな発見や刺激も多く、自分の視点や思考の幅を広げる貴重な経験になったと感じています。

また、国際社会で働く経験を通じて、グローバル社会における「社会人」として必要なスキルを学ぶ機会にもなりました。具体的なテーマ設定能力、積極的な行動力、強いリーダーシップ、発信力に加え、異文化を理解する柔軟な発想力、こうした高いスキルを持った国際社会の第一線で活躍する方々と、シドニー赴任中にお会いし

一緒に仕事できたことは、海外勤務の醍醐味の一つだったと感じています。また、国民の約4分の1が海外出身者から成り立つ移民国家のオーストラリアでは、英国、スリランカ、イタリア、レバノン、セルビアなど実に様々な国から移民が流入しており、街にはこういった国々の料理を楽しめるレストランも多く存在していました。日本では珍しい他国の料理を知り、舌鼓できたことも新たな発見となりました。

大きく広がる活躍の場

総務省では、ICTという軸を中心にして幅広い分野に携わっていくことが可能であり、霞ヶ関に限らず、地方公共団体、海外へと活躍の場は大きく広がっています。国際的な技術動向を見極めながら、国内外で最先端の技術を使ったサービスをどのように展開していくのか、アンテナを高く持ち、可能性を信じて国内外の関係者と協力しながら新しい未来を創っていく、そんな仕事をしたいと感じたら、是非、総務省の門を叩いて下さい。皆さんと一緒に働けることを、楽しみにしています。



オーストラリアの知人と

生活に欠かせない存在と なった無線サービス

ICTサービスの一つに無線サービスがありますが、皆さんが日々生活する中でどれだけの無線サービスに囲まれているか意識されたことはあるでしょうか。家族や友人と連絡をとるための携帯電話サービス、日々新鮮な情報を与えてくれるテレビ放送、くらしの安全を守ってくれる警察官や消防団員が使用する公共無線など、実際に数えてみると私たちの生活がいかに多くの無線サービスで支えられているかに驚かされると思います。総務省では、私たちのくらしをより安心して便利なものにしていくこれらの無線サービスをはじめ、ICT分野の発展やその利用環境の整備、国際競争力強化等を推進する政策を立案し、実行しています。

現在の業務：無線通信分野の 国際ルールづくり

現在、私が担当する主な業務の一つに、無線サービスの国際ルールづくりの推進があります。もしもルール無しで世の中の無線サービスが運用されたとしたら、どうなってしまうのでしょうか。異なる無線サービス間で電波の混信が起これば、例えば、携帯電話が繋がらなくなってしまう、テレビが映らなくなってしまうなど、社会的な混乱が生じてしまうかもしれません。これらの混信問題は国内だけにとどまらず国際的にも起こり得ることで、例えば、他国の運用する衛星

が発する電波により、日本の無線サービスが干渉を受けてしまう可能性があります。そのような問題の発生を未然に防ぐために、世界各国のICT分野の主管庁は電波利用の国際的なルールの策定やメンテナンスを行っており、総務省は日本の主管庁としてその活動に参加しています。最近では、2015年11月にスイスのジュネーブに世界各国から約4000人の代表団が集まり、1ヶ月間に渡って各国の利害の調整を行いながら電波利用に関する国際ルールの改定を行いました。私も日本代表団としてその会合に参加し、日本の無線産業の権益の確保と国際協調のため、それぞれ国益を背負った各国の代表団との議論を行いながら、国際ルールに日本の意見を反映してきました。これら国際ルールの策定や改定は、日本の制度の改定にも繋がるため国内の産業に与えるインパクトも大きく、会議での交渉には多大なプレッシャーが伴いますが、その分やりがいも大きく、また、日本の国益を背負うという経験は、多くの面での学びと成長の機会を与えてくれます。

様々な業務を通じた成長の機会

総務省に入省した後は、概ね2年おきに所属を変えながらICTに関係する幅広い分野に携わっていくこととなります。私も上記の業務の他、これまでに様々な業務を経験し、また、米国へ2年間留学する機会にも恵まれました。それらのいずれにおいても新しい挑戦があり、新しい知識を急速に身につけ、議論の第一線に飛び

込んでいくことが求められました。別の言い方をすれば、総務省では常に成長の機会が与えられ、能力を向上させることでよりチャレンジングでやりがいのある業務に携わっていただけることだと思います。

就職活動中の皆さんへ

皆さんは、仕事選びという人生の中での大きな決断の一つを行おうとしていると思います。それは決して簡単に決めることができるものではなく、大切な決断になりますので、よく悩み、心から納得できる道を進んでいただきたいと思います。多くの選択肢の中で、もしもあなたがICT分野に興味を持ち、世の中をよりよい姿に変えたい、やりがいのある仕事をしたい、常に自分を成長させていきたいと考えているのであれば、総務省は有力な候補となるでしょう。是非総務省の門を叩いてください。そこには活躍の場が広がっています。皆さんが総務省の一員に加わり、共に日本のために働ける日を楽しみにしています。



ラインでの打ち合わせの一幕

共に成長し、日本をよりよい国にしていきませんか

総務省 総合通信基盤局 電波部 電波政策課
国際周波数政策室 課長補佐

岩間 健宏

Takehiro Iwama

平成 17年 4月 総務省採用
同 情報通信政策局技術政策課研究推進室
平成 19年 7月 同 情報通信政策研究所調査研究部研究官
平成 20年 7月 同 情報流通行政局放送技術課企画係長
平成 22年 7月 同 行政評価局評価監視官室評価監視調査官
平成 24年 7月 米国留学
(コロンビア大学、カリフォルニア大学サンディエゴ校)
平成 26年 8月 現職